

II 国語 正答表並びに採点上の注意

(平成二十九年)

問一

(ウ)	(イ)	(ア)	
3	a	3	1
	1	はんぷ	こうけん
(エ)	b		
4	2	c	4
	4	d	2
	2	さと(す)	かせん

問二

(ア)
1
(イ)
3
(ウ)
4
(エ)
2

問三

(オ)	(ア)
1	4
(カ)	(イ)
3	2
	(ウ)
	1
	(エ)
	4

問四

(カ)	(オ)				(ア)
1	動き。	て	割	て	人
(キ)		い	を	、	間
4		こ	、	社	の
		う	仕	会	本
		と	事	の	来
		い	づ	な	の
		う	く	か	営
			り	で	み
			を	の	の
			通	自	回
			し	分	復
			て	た	を
			実	ち	め
			現	の	ざ
			し	役	し

問五

(イ)						(ア)
大切である。	書	境	校	読	情	私
	の	を	図	む	報	たち
す	積	書	時	機	器	は、
	ば	極	館	間	と	
ら	的	な	を	う		
	に	ど	確	ま		
し	活	自	保	く		
	さ	分	す	つ		
を	実	の	る	と		
	感	身	と	あ		
す	、	近	も	っ		
	る	も	な	て		
こ	と	読	に	、		
	と	書	、	本		
と	が	環	学	を		

(ア)は両方できて正解。(イ)は正答例。

五	四	三	二	一	問	計
(ア)4点 (イ)6点 計10点	(オ)6点 他は各4点 計30点	各4点 計24点	各4点 計16点	各2点 計20点	配点	100点

【問題全般について】

- 中間点は、問四(オ)、問五(イ)以外には設けないこと。
- 疑問点は複数の採点者及び点検者によって判断し、校内で統一すること。

【中間点のある記述問題について】

- 正答例以外であっても、与えられた条件をすべて満たし、問題の趣旨に即した文ならば、正答として六点を与える。
- 内容については、中間点を設けないこと。
- 誤字・脱字(句読点に係る誤りを含む)については、その数にかかわらず二点減点とする。誤字・脱字(句読点に係る誤りを含む)の判断については、校内で統一すること。
- 表現に問題があり、それによって明らかに問題の趣旨から外れている、内容を読みとることができない等の場合は、誤答とする。ただし、許容できると判断した場合は、その数にかかわらず二点減点とする。表現の問題については、複数の採点者及び点検者によって判断し、校内で統一すること。
- 中間点は、誤字・脱字(句読点に係る誤りを含む)がある場合と表現に問題がある場合の減点以外は設けないこと。したがって、中間点は四点または二点となる。
- 指定語句がある場合、その語句が含まれていない解答は誤答とする。また、指定語句がそのまま書かれていない場合(漢字表記をひらがな表記にしたもの等)や指定語句の誤り(誤字・脱字)についても誤答とする。

○ 問四(オ)について

指定語句は「役割」「営み」である。

得点項目A 内容については、次の二点に触れていること。

- (あ) 「社会のなかでの自分たちの役割を実現していく」こと。
- (い) 「人間の本来の営みの回復をめざす」こと。

〈正答例〉

社会のなかでの自分たちの役割を仕事づくりを通して実現していこうと、人間の本来の営みの回復……をめざす動き。

45

55

人間本来の営みの回復をめざし、自分たちの社会的役割を仕事づくりにより実現していこうという……「半市場経済」の動き。

45

55

○ 問五(イ)について

得点項目A 内容については、次の三点に触れていること。

- (あ) 「情報機器とうまくつきあって」本を読む時間を確保すること。
- (い) 「学校図書館など自分の」身近な読書環境を積極的に活用すること。
- (う) 「読書のすばらしさを実感する」こと。

〈正答例〉

私たちは、豊かな言葉や表現を学んで読書のすばらしさを実感するとともに、本を読む時間を確保したり、身近な読書環境を積極的に活用したりすること……が大切である。

65

75
